

ピアサポート及び就労 コンソーシアム ～生活訓練事業を行う3法人のたすき掛けプロジェクト～

遠藤 紫乃¹、○山中 直¹、小田代 桂子¹、河野 文美²、石川 慧子³

¹一般社団法人 スターアドバンス、²特定非営利活動法人 ヒーライトねっと、³特定非営利活動法人 SIEN

1.はじめに

生活訓練事業を実践してきたなかで、「ピアサポートに興味があり、ピアサポーターになりたい」との希望をもつ多くの利用者が出てきた。

そうした利用者らとともにピアサポートの勉強をしてみると、「じゃあ実際の活動はどうするの?」「ボランティアなの?」「雇用はしてもらえないの?」「ピアサポーターになったら、もうサービスは使えないの?」等、様々な課題に直面することになった。

また実際にピアサポーターとして働くと、もともと自分がサービスを利用していた法人や事業所では、「利用者としての自分」と「ピアサポーターとしての自分」という2つの立場の間で葛藤に陥ることがあった。

さらにピアサポーターとして活動しながらも、生活面のサポートも引き続き必要とする場合は、「生活のサポートをする事業所」と「ピアサポーターとして活動する事業所」が同じだと、そこにも葛藤がうまれた。

そして、そうした課題に直面する事業所や利用者は多く、当法人だけの課題ではないと感じていた。そのため、「生活のサポートをする事業所」と「ピアサポーターとして活動する事業所」は別の方が好ましいとの考えに至った。

そこで、1つの法人だけでは困難なこれらの課題を解決するため、“目指す方向が同じ”で“距離的に活動を一緒に行える”近隣の3法人が集った。そして、地域でのピア活動の新しいシステム作りを“たすき掛けプロジェクト”としてスタートさせた。

各法人からプロジェクトスタート時点での現状について、そして取り組みの過程と具体的な内容、今後の見通しについてパネルディスカッション形式での実践報告を行う。報告の最後には会場からの質問も交えて、ピアサポートの今後について考察をおこないたい。

2. プロジェクトスタート時点での現状について

1)スターアドバンスの現状と提案 2)ヒーライトねっとの現状 3)SIENの現状

3. 取り組みの過程～具体的な取り組み内容と今後の予定

第1ステージ 生活訓練のプログラムとして3法人合同開催

第2ステージ 実習ケースカンファレンスを通じた振り返り・共有

第3ステージ 来年度に向けて

4. 取り組みから見えてきたこと

5. 考察・まとめ

※プロジェクトに参加しているピアの方には、事例の発表及び写真の使用などについて、口頭にて承諾を得ています。